

西大和団地50周年にあたり

西大和団地自治会会長 萩原 尚

西大和団地は昭和40年11月から入居が始まり、一部の建物を除き、今年50周年を迎えます。

当時は大変倍率の高い抽選に受かってから入居できた公団住宅でしたが、この団地が出来た背景と当時の社会状況について次の通り記載します。

太平洋戦争直後の昭和20年、和光市・朝霞市・新座市・練馬区にあった陸軍予科士官学校と被服廠を進駐軍が占領し、キャンプドレイクと呼称しました。

その後昭和25年6月に朝鮮戦争、昭和39年にベトナム戦争が勃発し、朝霞市にあったキャンプド

スが運行されるようになり、団地住民にとっては、通勤時間帯のみの運行でしたが、生活するには大変便利でした。

団地の開設当初、現在の樹林公園東側にはモモテハイツがあり、高さ2mほどの金網越しに広がる芝生とそこで遊ぶ諸外国の子供たちがいて、現市庁舎の場所にはパン工場があり、団地内にパンの焼ける匂いがたち込めていました。団地東側の外環道が出来るまでは、小高い丘があり子ども達がスロープを滑り降りて遊びまわっていました。

平成2年、7階建ての第2西大和団地（84戸）が完成、平成6年にはデュプレ西大和団地が完成、西大和団地は総戸数1579戸の団地となりました。

今年8月頃から「ひろさわ保育園」「消防署跡地」「しまむら駐車場北側空地」に「ひろさわ保育園」を1階に取りこんだ1階建て「新建物」の工事が着工されます。

平成27年3月この「新建物」第一期工事が完成後、現状の団地再生のため、既設団地の一部建替え工事がスタートします。現在の建物のほとんどは低層5階建てですが、今後10～15年間で11階建ての高層住宅となる予定です。（現状の団地の約1/3の建物、17棟459戸対象）

50周年にあたり、自治会もより一層住民の皆さんが明るく住みよい西大和団地となるよう、活動していきたいと思えます。